



誰よりも秋田が好き

[秋田市観光クチコミ大使]

リコージャパン株式会社 流通・サービス事業部 担当部長 山中 潔氏

今でも目に焼き付いて忘れられない光景があります。それは世間がクリスマスイブで盛り上がっている2011年12月24日、猛吹雪の秋田空港に降り立った日です。それまで神奈川や東京で仕事をしてきた私にとって、初めての秋田、初めての雪国、そして初めての単身。不安と期待ではなく、不安しかありませんでした。案の定、1日が朝の雪掻きから始まり、歩くこともままならない雪道…。いつしか「早く帰りたい」が私の口癖になっていました。

そんな私が4年と3ヶ月もの間、無事に職務を全う出来たのは秋田県人の優しさに他なりません。そして何より一緒に働いた社員の温かさに改めて感謝いたします。商工会議所を始め、色々な会合へ積極的に参加しましたが、その後の懇親会が私にとって秋田を知るまたとないチャンスでした。懇親会で隣り合う人はほとんどが初対面の方にも関わらず、戸惑っている私に対して優しく話かけていただき、私がラーメン好きだと言うと「どこそこのラーメン屋は美味しい」だとか、また温泉好きだと言うと「どこそこの温泉のお湯は最高だ」などと教えてくれました。そういう秋田県人のたまにおせっかいな、だけど優しいところに心から感謝しています。ちなみに教えられたお店や温泉は必ず行きました。

私が秋田在任中、1人でも多くの人に秋田を知ってもらおうと、以前所属していた神奈川や東京の社員はもとより、家族、親類、友人、そして取引先と相当な人数を秋田に呼んだと思います。「秋田空港から男鹿半島、なまはげ館、入道崎のウニ丼、そして秋田市内で温泉」の定番コースで、ほとんどの人は満足して帰って行きました。しかし、もう1度秋田

へとなると仕事以外ではなかなか難しく、いわゆるリピーターにすることが出来ませんでした。

人口減少問題、少子高齢化問題等々、秋田を取り巻く環境は厳しさを増すばかりで、秋田をこよなく愛する私にとっては耐え難い問題です。この思いは秋田を離れてからも何も変わっておらず、むしろ強くなっているように感じます。ちなみに東京での行きつけのお店は、秋田のお酒や料理が食べられるところばかりです。今年4月に転勤してから、既に4度秋田に帰りました。何気に出てくる言葉は「秋田に帰る」。もちろん4度とも新たなメンバーを伴った秋田旅行です。「初めての秋田」から「2度目、3度目の秋田」と言ってもらえる人を1人でも増やし、その人達に秋田の魅力発信の伝道師になってもらう、この活動こそがまさしく秋田を元気に出来ると思います。ただ実現には時間も掛かりますし、ハードルも高いです。だからこそ、秋田県人やOBの我々が地道に秋田をPRしていかなければならないと思います。もちろん私自身も積極的に秋田の魅力を発信していきたい！それが観光クチコミ大使の使命だと思います！

私にとっての第2の故郷…そんな秋田が誰よりも好きです。

■略歴

昭和35年	神奈川県小田原市生まれ
昭和53年	小田原城北高校卒業
同年	神奈川リコー株式会社入社
平成20年	リコージャパン(株)東京支社城西事業部長
平成24年	リコージャパン(株)秋田支社長
平成28年	現職